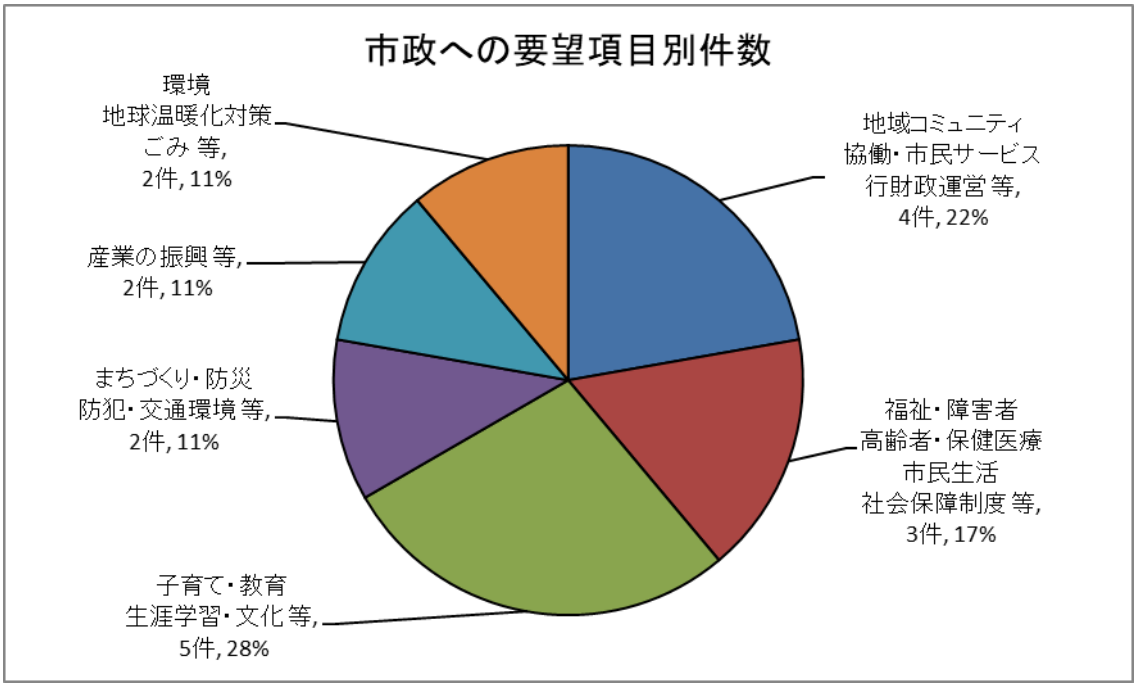
令和３年度（2021 年度）「市長と語る」の提案等取組状況

開催実績　テーマ：「私が考える未来の八王子」

（単位：人）

開催日	会　場	テーマ	発言者数
11 月 27 日	生涯学習センター（クリエイトホール5階）	「私が考える未来の八王子」	11

※新型コロナウイルス感染症対策のため無観客で実施



次ページから、令和３年度（2021 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取組状況の一例をご紹介します。

＜意見＞　「日本一の教育都市　八王子の実現」について

　学校教育に地域の力を取り入れ、子どもたちにたっぷりと愛情をかけ、学力をしっかり定着させることで、子どもたちは自己肯定感を高め、確かな学力を土台に健やかに未来に向かって成長すると思う。

　中核都市としての地域人口と、地域の大学を数多く抱える八王子市の強みを最大限に活かすよう市長にお願いしたい。

≪市長発言（当日）≫

　市民学習ボランティアに関連するものの一つとして、「放課後の居場所提供」を主な目的とする「放課後子ども教室」という事業を実施している。校庭での外遊びが中心であり、また、スポーツや芸術など、様々な活動プログラムといった体験活動の機会を提供する場でもあるが、活動を担っている運営団体の中には、地域で学習を支援するプログラムを実施しているところもあり、こういった取組みをさらに進めていきたい。

　また、英語教育の充実や国際理解を進める取組みとしては、小学校５・６年生を対象とした市内大学等からの留学生との交流事業があり、子どもたちは日々の授業で学んだ英語を使って留学生と交流活動を行うことで、外国の言語や文化についての理解を深めていくとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図る機会を得ることができている。

【その後の対応】

地域人材の効果的な活用及び新たな人材確保を目的に教育支援人材バンクの制度を、令和４年度から「学校支援ボランティア人材バンク」として変更する。（令和４年４月１日～施行）

広報はちおうじ（令和４年３月１日号）でボランティアを募集したほか、今後は市内大学や団体等への働きかけを行い、本事業の更なる充実を図っていく。

＜意見＞　「町会活動を若者の活動の場にすることによる活性化」について

　地域活性化ということを言われるが、その再構築のキーワードが「若者の活躍」と「情報の共有」だと思う。町会が存続の危機に瀕しているのが課題。町会は今、非常に会員が減少しており、地域の活動や、会の魅力自体も減少しており、結果的にその地域の生活基盤の崩壊が懸念されている。若い方の加入が少なく、役員の負担が大きい。

　LINE 等を使って町会の情報を、町会に入っていてもいなくても見られるようになることを考えている。縁の下の力持ちになって、若い人たちが町会の中で活躍できるような形になるとよい。

≪市長発言（当日）≫

　本市にとって町会・自治会は、行政と地域住民を結ぶ中心的な組織であって、また、地域コミュニティの形成にとっても、重要な役割を担っている。

近年、高齢者世帯も増えており、地震や豪雨等の自然災害も多くなる中、地域住民のつながりや災害時の共助の視点から町会・自治会の重要性は高まっている。

令和３年度中にデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）推進計画を策定し、市民、企業、大学及び町会・自治会等と連携して、デジタル技術を活用した地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく予定で、町会活動への若者参加、高齢者へのデジタル支援は、本市も進めていくべき取組みと方向性を同じくするものである。

【その後の対応】

令和４年２月にデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）推進計画を策定し、公表した。今後、計画に基づく具体的な事業や目標値を示したアクションプランを令和４年７月までに策定し、市民、企業大学及び町会・自治会等と連携し、デジタル技術を活用した地域づくりに取り組んでいく。

スマートフォン等の操作が苦手な方が身近な場所で気軽に相談や支援を受けられる仕組みを構築するため、地域の団体やグループ等を対象とした講師派遣型のスマートフォン教室を令和４年度から実施する。

町会・自治会活動について、デジタル化をしている町会・自治会の取組を市のホームページに掲載予定。

東京都が実施している「地域の底力発展事業助成（デジタル活用支援）」や「講師おまかせ教室（令和４年度実施予定）」について、町会・自治会に情報提供を行う。